医師を支える存在としての医局事務チームの紹介

王子生協病院　長原あゆみ
加藤智・加納高則
灰野真紀・吉川藍子・三村はるな・石川翔平

当発表において開示すべき
COIはありません。

本日のお話

- 王子生協病院の概要
- 王子生協病院医局事務チームの紹介
  - 各担当の仕事内容
- 働きやすい職場づくりのための工夫
- 具体的なエピソード
- 女性医師復帰支援の経験

王子生協病院の概要

【所在地】 東京都北区豊島3-4-15

1.入院　159床

＊ 地域包括ケア病棟：45床 ＜稼働率：95.4%＞

＊ 一般急性期病棟：47床 ＜稼働率：93.4% , 平均在院日数：16.6日(単純) ＞

＊ 緩和ケア病棟：25床 ＜稼働率：95.3%＞

＊ 回復期リハビリテーション病棟：42床 ＜稼働率：101%＞

2.外来

＊ 診療科目：内科,神経内科,呼吸器内科,循環器内科,消化器内科,
腎臓内科,心療内科,緩和ケア内科,老年内科,小児科,整形外科,
泌尿器科,皮膚科,リハビリテーション科
○特徴的な外来：もの忘れ外来、緩和ケア外来、禁煙外来

＊ 一日平均患者数：240人　　救急搬入数：49件/月(応需率：71%)

3.訪問診療　233件/月（在宅療養支援病院）

4.健診　9,558件/年

王子生協病院の概要

常勤医師数：17人

うち、男性医師：9人／女性医師：8人

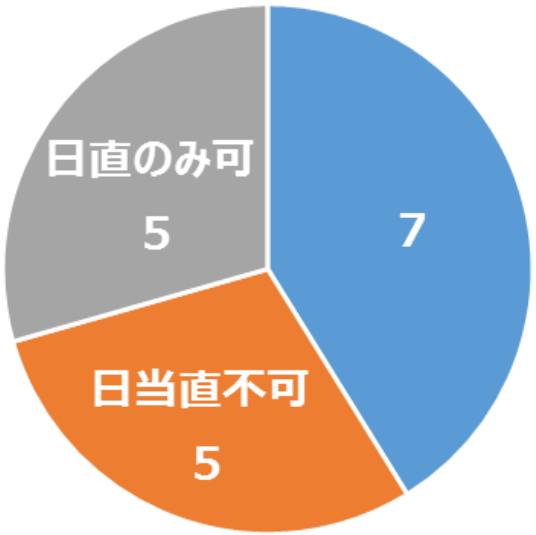
初期研修医：1人／後期研修医：2人

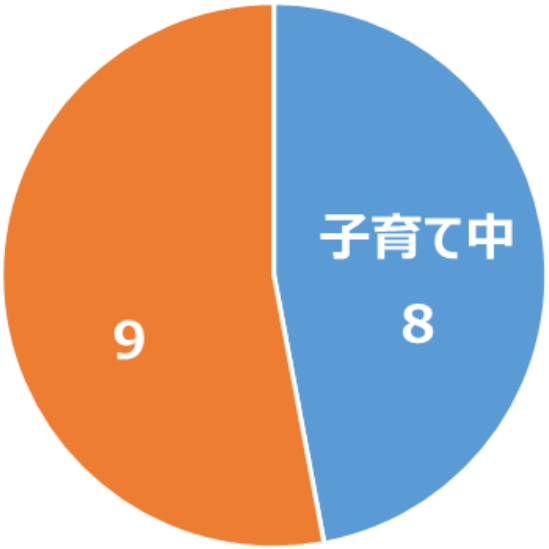
内科系：16人

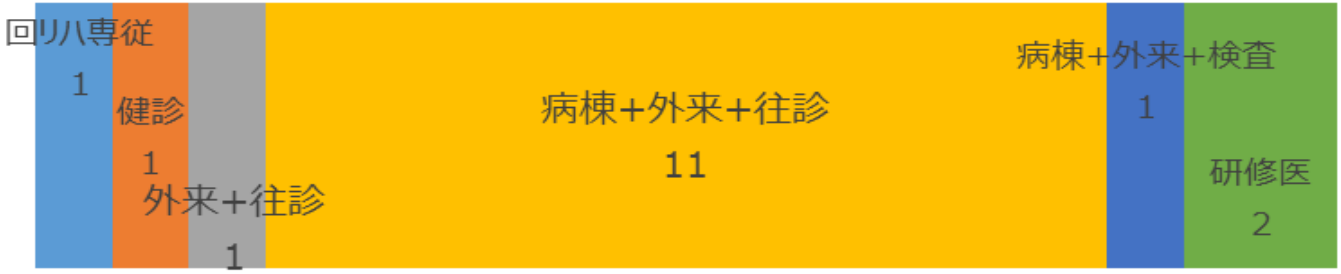
ほぼプライマリ・ケア医,家庭医

小児科：1人

常勤医師17人の分類


日直のみ可
5
7
日当直不可
5


子育て中
8
9


回リハ専従
1
健診
1
外来+往診
1
病棟+外来+往診
11
病棟+外来+検査
1
研修医
2

医局事務チーム

他、研修担当1名（出張のため不在でした）

医局事務のお仕事

医学生担当

医学生の実習受け入れ,研修医採用に関する実務,医学部志望の高校生の病院見学受け入れ,医療を入口に“地域”を医学生に知ってもらい一緒に学ぶ

研修担当事務

研修スケジュール作成・管理,研修先との調整・面談,研修進捗状況確認,学習会の講師手配,指導医会(毎週)・レジデンシー運営会議(月1回)の開催とサポート,研修関連の届出書類の作成・報告

医師担当事務のお仕事

法人全体の医師業務・医師に関わる事務のマネージメント,医師キャリア形成への支援・研修先との交渉,常勤医師・非常勤医師のリクルート

MA

各種書類の代行作成,医局書類・医学書・定期購読本等の整理

医局事務(主に私、長原)のお仕事

○医師のスケジュール管理、各職場との調整

- 年間スケジュール確認（学会や連休、夏休みの調整）
- 日当直体制表・救急当番表・健診当番表
- 外来診療体制表・常勤医師週間体制表
- 医師不在のときの代診手配（出張・有休振休消化・他事業所支援など）

○非常勤医師のリクルート（業者対応・採用面談）

○トラブル発生時の対応

○医局会議の準備・運営

○医師の給与データ作成

○イベントの調整（次ページ）

さまざまなイベントの裏方
＜医局事務みんなの仕事として＞

- ベテラン中堅医師のためのブラッシュアップ講座(月１回)
- レジデントデイ
- ポートフォリオ発表会（後期研修修了式）
- ポートフォリオ合宿
- OSCE（初期研修修了式）
- 医局旅行（日帰りor一泊バスツアーでお子さんも参加）
- 懇親会の企画（飲みュニケーション）

上記イベント等の
　講師や懇親会の手配,チラシ作成・宣伝,当日の会場設営

その他、医局事務みんなでやっている仕事

- 医局の環境整備
- コーヒーを入れる、美味しいお菓子の準備
- お誕生日会のケーキ
- メダカの世話
- コミュニケーションボードの管理：何気ないテーマが会話のきっかけに！
- やむを得ない事情で医師が子供を連れてきた場合、医局でお世話：「医局保育園」

医局旅行

事務

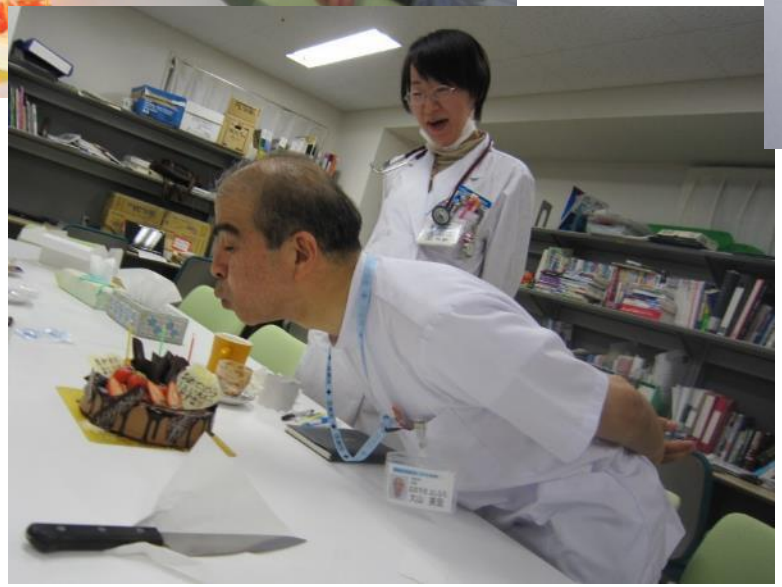
家族

ポートフォリオ発表会

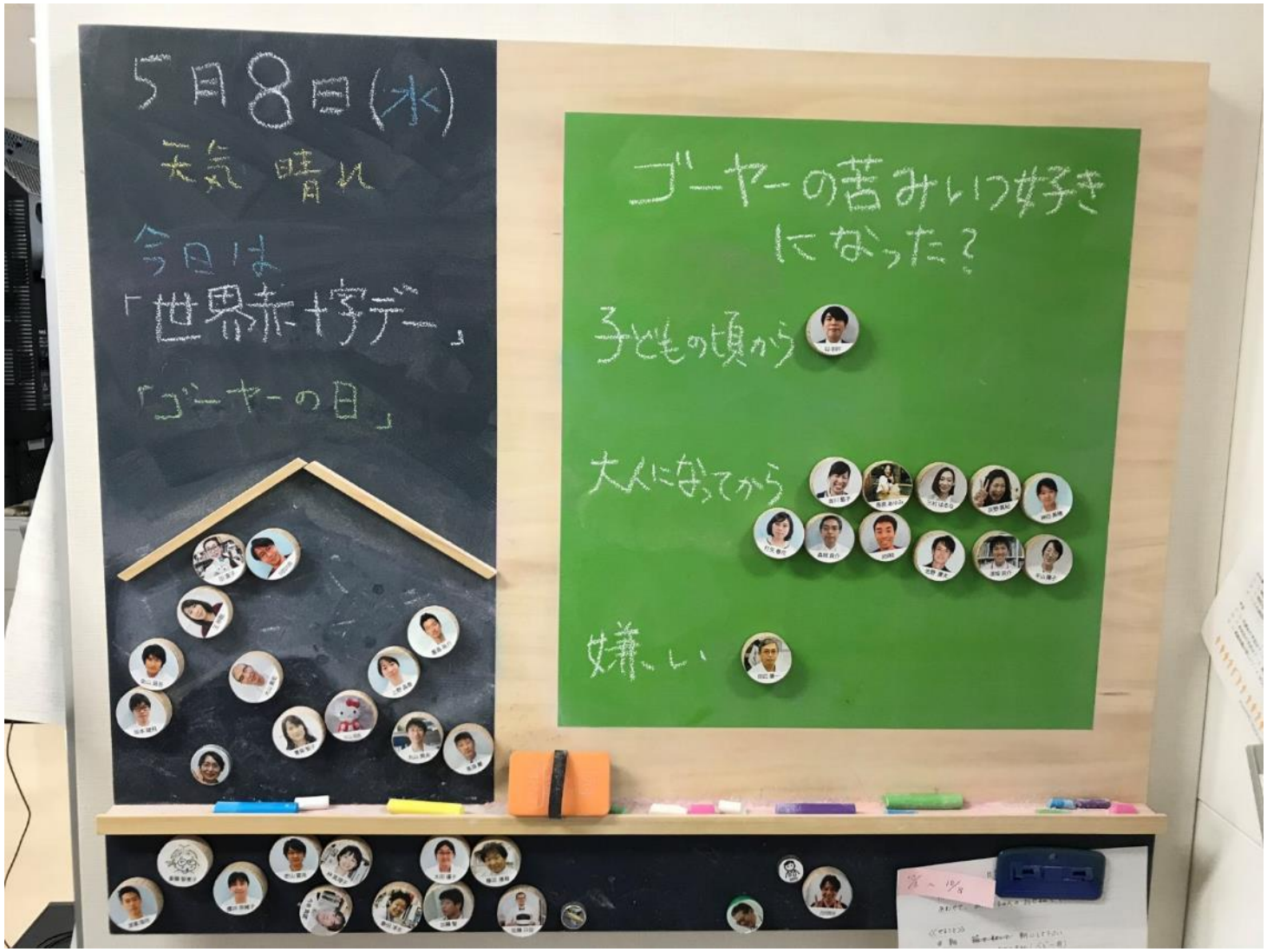
準備する事務

2018年度　王子生協病院
ポートフォリオ発表会・後期研修修了式
2019年3月21日（木・祝）　於：北とぴあ　展示ホール

誕生日会



コミュニケーションボード



メダカ

季節ごとに内装も
替えます

医局保育園

働きやすい職場（医局）づくりの工夫

- できるだけ笑顔で。できるだけ“素”で。
- “face to face”を基本とする。
- 医師が医局に戻る朝・昼・夕方には、医師が声をかけやすいように「暇しているよ！」オーラを出す。
- 医師の体調に気を配ること（顔色、表情、発言に注目）
  必要に応じて声かけをしている。
- お互いの仕事や私生活を理解し、思いやりをもつ。
- メダカの飼育やコミュニケーションボードを通じて会話が弾み、医局が安らぎの場所になるように。
- 個別の“飲みュニケーション”も大切に。

医師が少ない中で医療を継続するための工夫

～ 少ないからこそ一人ひとりを大事に思い、関わる ～

◇ **不公平感の払拭**

- 当直ダメなら日中の業務(健診・救急当番・日直・訪問診療…)で、働ける場所で頑張ってもらう
- 負担がかかる医師への感謝を言葉など見える形に。
- 「お互い様」の認識

◇ **常勤医師の負担軽減**

- 日当直パート医の活用
- 医事課以外に医局直属のＭＡ配置

研修医受け入れのダイバシティエピソード

○メンタルサポート

低空飛行でも「研修を終わらせること」を重視。

日々、表情・言動に注目し、必要に応じて声かけ。手をかける必要があると判断、突発事由が起きた際には随時指導医・プログラム責任者と相談し、個々に面談を行なってきた。

面談を踏まえて1週間程度の休暇を取得、勤務交代などの対応を行なった。

外部研修も多く、その都度研修先にも必要な情報を共有し、ご協力いただいた。

医師の個性や状況に合わせて、事務の中でもメンターを配置していた。

○LGBT

研修担当だけでなく、学生時代から接してきた医学生担当も含めた定期面談で本人の思いを引き出し、ローテート研修における研修先との面談で、その都度必要に応じて情報提供し理解・協力をお願いするなど対応した。

○出産・介護

体調や状況に応じて、本人・指導医・プログラム責任者と相談しながら、業務・研修内容を見直し調整した。休みが長期になる場合、病院外へも出向き、状況や思いを聞き取る面談を行なった。

医師から医局事務への評価

「忙しい業務の中で我を忘れそうになる、そんな時に“自分”に戻れる。思考と心を戻す場所。」（医局長より）

学生時代から関わっていると、研修をスタートして慣れない環境にいる中では「居心地良い人(場所)」と思ってくれている様子。

「育休中に書類作成をするときに当時３ヶ月だった息子を預かっていただき非常に助かりました。最初は泣いていたけど、次第に事務の方に慣れて遊ぶようになりました。」

（医師より）

女性医師の支援について

- 妊活中、妊娠中、産休・育休明け、子育て中の医師に対しては、特に調整が必要な場合が多くなる。
- 家庭の状況（夫の忙しさや父母の協力の有無、通勤、お子さんの発達面など）はその家庭ごとにさまざま。
- 最初はどこまで個別の状況を聞くべきか迷ったが、平山医師とともに面談を繰り返す中で、それぞれの医師の事情が分かり、復帰支援がしやすくなった。

続き

- 育休明けの場合は子供にとっても無理のない復帰となるようスケジュールの組み方は注意している。
- 産前産後に使える制度（育休制度、育児時間、時短など）について情報提供を行う。
- 保育園が見つからず苦労したこともあり、実際に保育園に医局事務皆で電話をかけまくったことも。
- 不妊治療中の女性医師にも支援が必要と感じている。急な休み、治療に伴う体調不良など気兼ねなく相談してもらい、医局の協力を得ながらサポートしている。

自分自身の子育て経験を思い出しながら復帰支援をしています

- 私自身も双子の妊娠中は思うように動けなくてつらかった。復帰してからも長男と双子の保育園の送り迎えだけでもふらふらになっていた。病気やケガはしょっちゅうで、呼び出されたら迎えに行かなくてはならないし、職場の方には大変迷惑をかけていた。その時の歯がゆさや切なさなどのいろいろな気持ちを思い出しながら、仕事をしている。

育休明けの復帰面談の様子

Ｕ医師のスケジュール調整の例

＜育休明けの復帰の相談の面談にて＞

- 復帰の日にちを決めるところから始まり、１週間は午前勤務、その後3か月ほどかけて、徐々に外来診療・往診など勤務内容を増やしていくことなどを決めた。
- 母乳継続の希望があり、授乳・搾乳時間の取り方なども具体的に相談した。

女性医師の支援について(まとめ)

- 女性医師支援においては妊活中から子育てが終わるまで、個別の事情に合わせてサポートしている。
- 長原は、自分の子育て経験をもとに、無理のない復帰ができるようアドバイスしており、王子生協病院では多くの医師が働きながら子育てを行っている。

まとめ

医師人生を
シームレスにサポート

高校生体験

医学生実習

地域の中で育てる

初期研修医後期
研修医のサポート

妊娠、出産、子育て
のサポート

色々なライフイベント

生涯教育

復職支援

働きやすい職場づくり

医局事務チーム

まとめ

- 王子生協病院事務チームは医学生（高校生・予備校生）から初期・後期研修、その後まで、医師人生における成長をシームレスにサポートするチームである。
- それぞれの役割分担はあるが、互いに情報共有しながら、医師が元気に働けるよう様々な工夫をしている。